

アナリティクスとビジネス インテリジェンスにおける AIの**パワー**を解放つ

Mike Leone | 主席アナリスト

ENTERPRISE STRATEGY GROUP

2024年1月

調査の目的

組織がデータ主導型意思決定の重要性を認識し続ける中、ビジネスのペースがアナリティクスの成功を阻みつつあります。ビジネスで使用可能な分散データの量が増加の一途を辿り、データ中心の利害関係者を圧倒しています。組織がデータの実態を包括的に把握しようと尽力する一方で、複雑さを増す層である「変化の速さ」が出現しています。ビジネスにおける変化の速さは、多くの場合、データを収集し分析できる速度を上回っているため、組織はビジネスの現状に基づいて正確なインサイトをタイムリーに配信するために支援を必要としています。

これらの課題に対処するために、組織は、手動のプロセスをなくして効率を改善し、生産性を高め、アナリティクスを民主化するAIツールに切り替えています。拡張分析 (Augmented Analytics) か、生成AI (GenAI) かに関係なく、利害関係者には、協調的な方法ですばやく簡単に、データにアクセスし、それらを分析、調査、可視化する機能を使用できます。

これらのトレンドに関するインサイトをさらに得るために、TechTargetのEnterprise Strategy Groupは、北米 (米国およびカナダ) の組織で、アナリティクスおよびビジネスインテリジェンスソリューションの評価、購入、管理、構築に携わる、またはそれらの責任を担う375人のデータおよびITプロフェッショナルを対象に調査を実施しました。

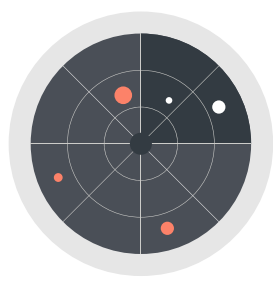
この調査の目的:



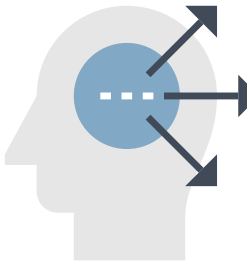
AIをアナリティクスおよびビジネスインテリジェンス (BI) に取り込むことで、組織が目指すメリットと実現されるメリットを**特定する**。



組織が自社のアナリティクスおよびBIプラットフォームで、拡張分析と生成AIを含め、どのようにAIを活用することを望んでいるかを**理解する**。



アナリティクスおよびBIの近代化イニシアチブの立ち上げに関連する課題と、関連するツールとテクノロジーの導入時に直面した課題を**明らかにする**。



アナリティクスおよびBIプラットフォームの選択と、これらのテクノロジーの支出と使用の目的の決定に携わる利害関係者を**判別する**。



主な調査結果

クリックして詳細をご確認ください



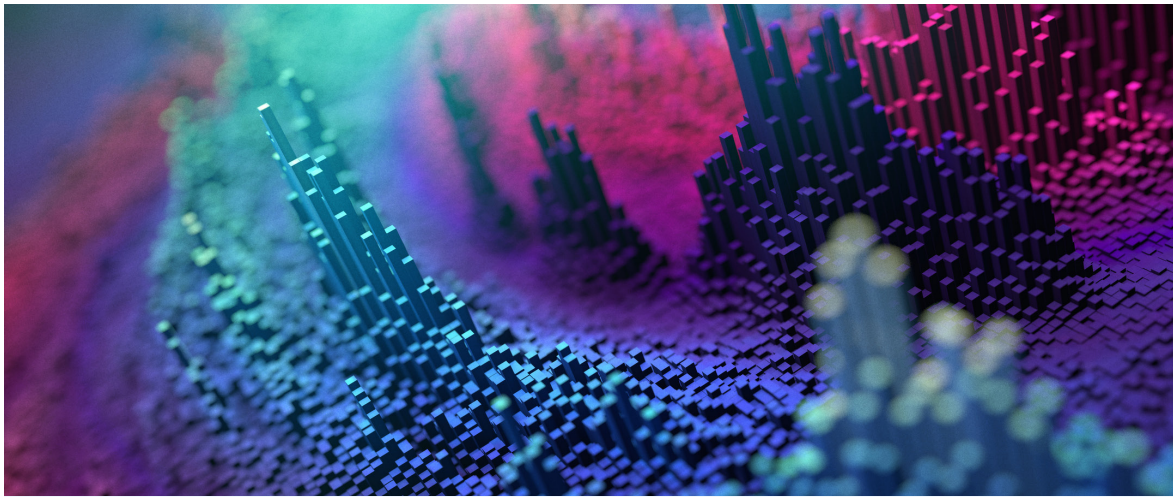
課題はあるものの、BIおよびアナリティクスへのAIの統合は、依然として優先事項である

4ページ



利害関係者はアナリティクスおよびBI全体での従業員エンゲージメントの改善を目指している

9ページ



カスタマイズされたソリューションは投資を増やし、ベンダーロイヤリティを脅かす

14ページ



AIはデータおよびアナリティクスのライフサイクルに大改革をもたらしているが、業務は依然として変わらぬままである

19ページ



メリットとリスク軽減のバランスを取るニーズが高まる中、生成AIが変革をもたらす

23ページ



調査方法とターゲット層

27ページ

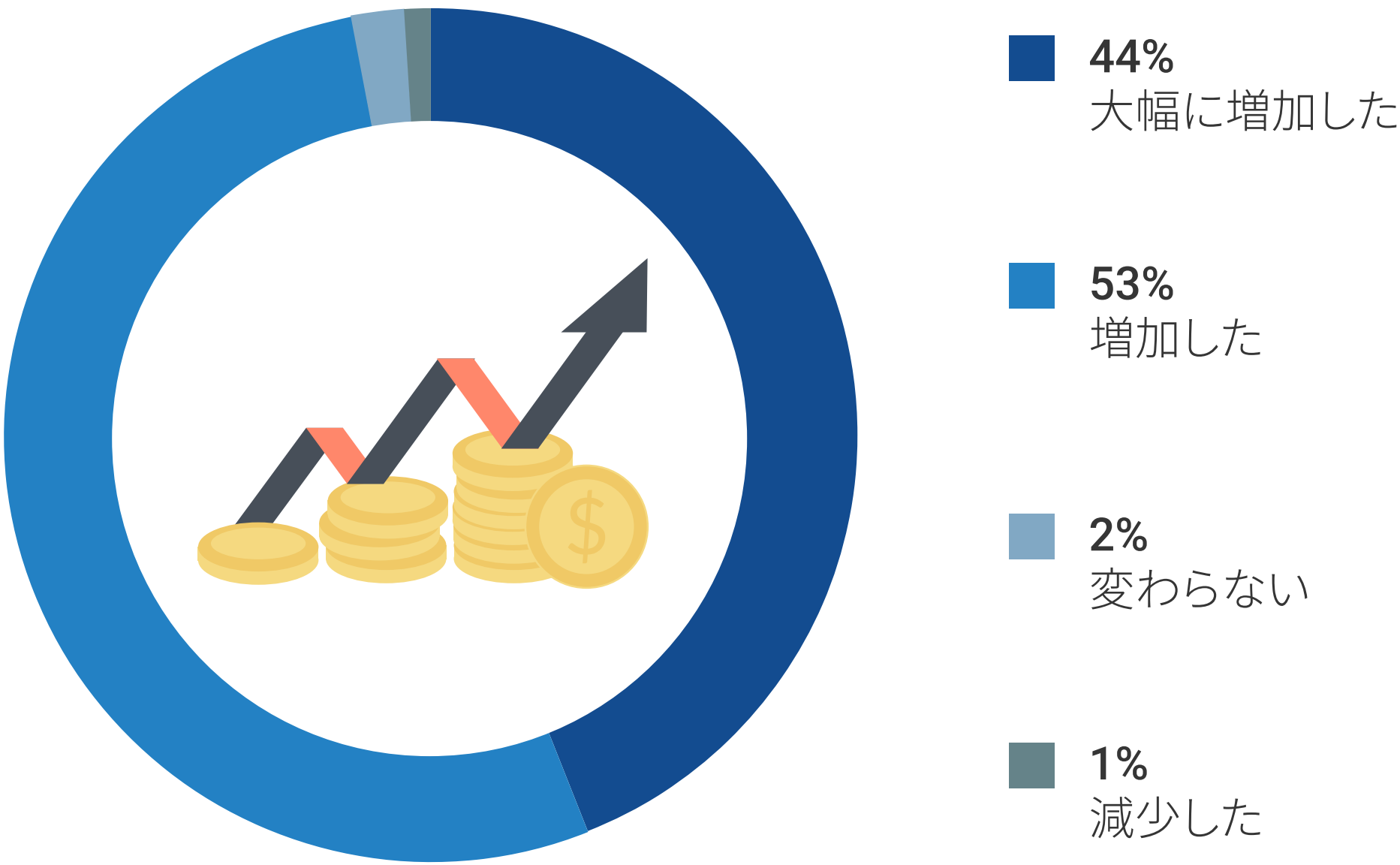
課題はあるものの、BIおよびアナリティクスへのAIの統合は、依然として優先事項である



アナリティクスおよびビジネスインテリジェンスへの戦略的な投資の急増

ビジネスインテリジェンスおよびアナリティクスへの投資は、この1年で大幅に急増しています。事実、昨年、組織の97%でアナリティクスおよびBIへの投資の増加が見られました。組織は、競争上の優位性を得るためにデータを活用する重要性をますます認識してきています。BIツールは、企業がデータ内のパターン、トレンド、インサイトを明らかにするために役立ち、企業はより戦略的でデータ主導型の意思決定を下すことができます。今後も、BIおよびアナリティクスへの投資の上昇傾向は続くと言われています。確かに、組織の89%が、企業がより適確にデータを統合、アクセス、分析できるツールにより多くの予算を割り当てていることに同意しています。さらに、それらの投資が行われているのは1つのツールだけではありません。組織の73%は、今日、組織内に3つ以上のBIツールを保持しています。

アナリティクスおよびビジネスインテリジェンスにおける投資の変化。

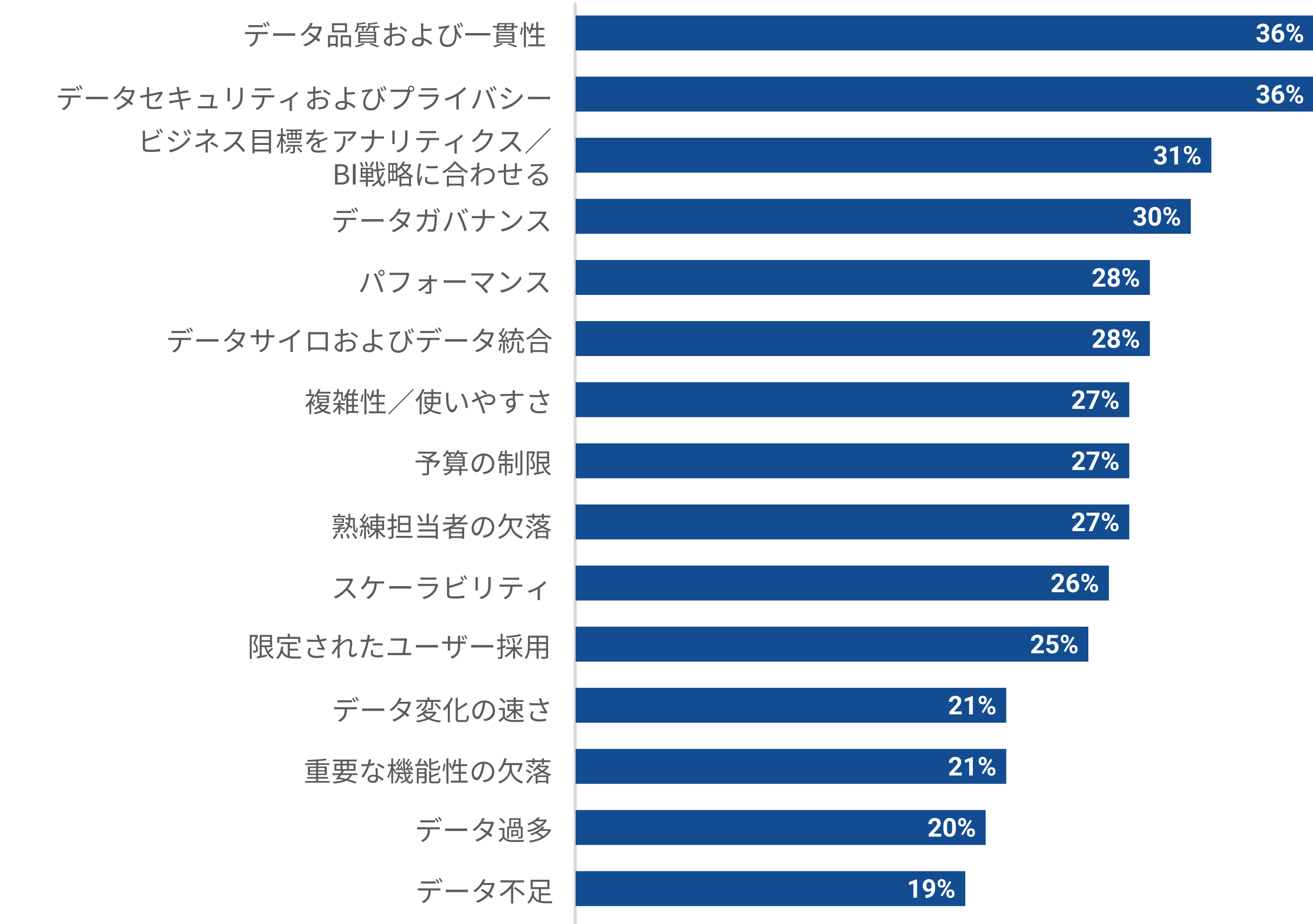


「組織の89%は、より適確にデータを統合、アクセス、分析できるツールにより多くの予算を割り当てていることに、同意しています」

データ品質とセキュリティがアナリティクスおよびBIにおける上位の課題を強調する

継続的な投資と重点的な取り組みにもかかわらず、複雑さとデータ量の増加がペースの早いAIテクノロジーと相まって不正確さのリスクが高まり、導かれたインサイトの信頼性を損なっているため、データ品質と一貫性は依然として組織にとって課題の1つとなっています。残念ながら、セルフサービス機能を提供するだけでは、役に立ちません。AI、データセキュリティ、プライバシーのファクタリングは、処理する膨大なデータ量とAIアルゴリズムの複雑さによって、BIおよびアナリティクスに相変わらず重大な課題をもたらします。そのため、意図せず機密データが漏洩する恐れがあります。さらに、AIシステムの相互接続性が、データ侵害のリスクを増幅し、高度なセキュリティ対策とプライバシー制御のニーズを高めています。多くの組織が、セルフサービス機能を通じてアナリティクスおよびBIを利用できる利害関係者を増やすよう努力していますが、セルフサービスアナリティクスを実現するという約束を果たせていない組織が少なくありません。さらに、大部分の組織が、インサイトに基づいて行動するまでの時間が長くなりすぎるとも言っています。

アナリティクスおよびBIプラットフォームの上位の課題。

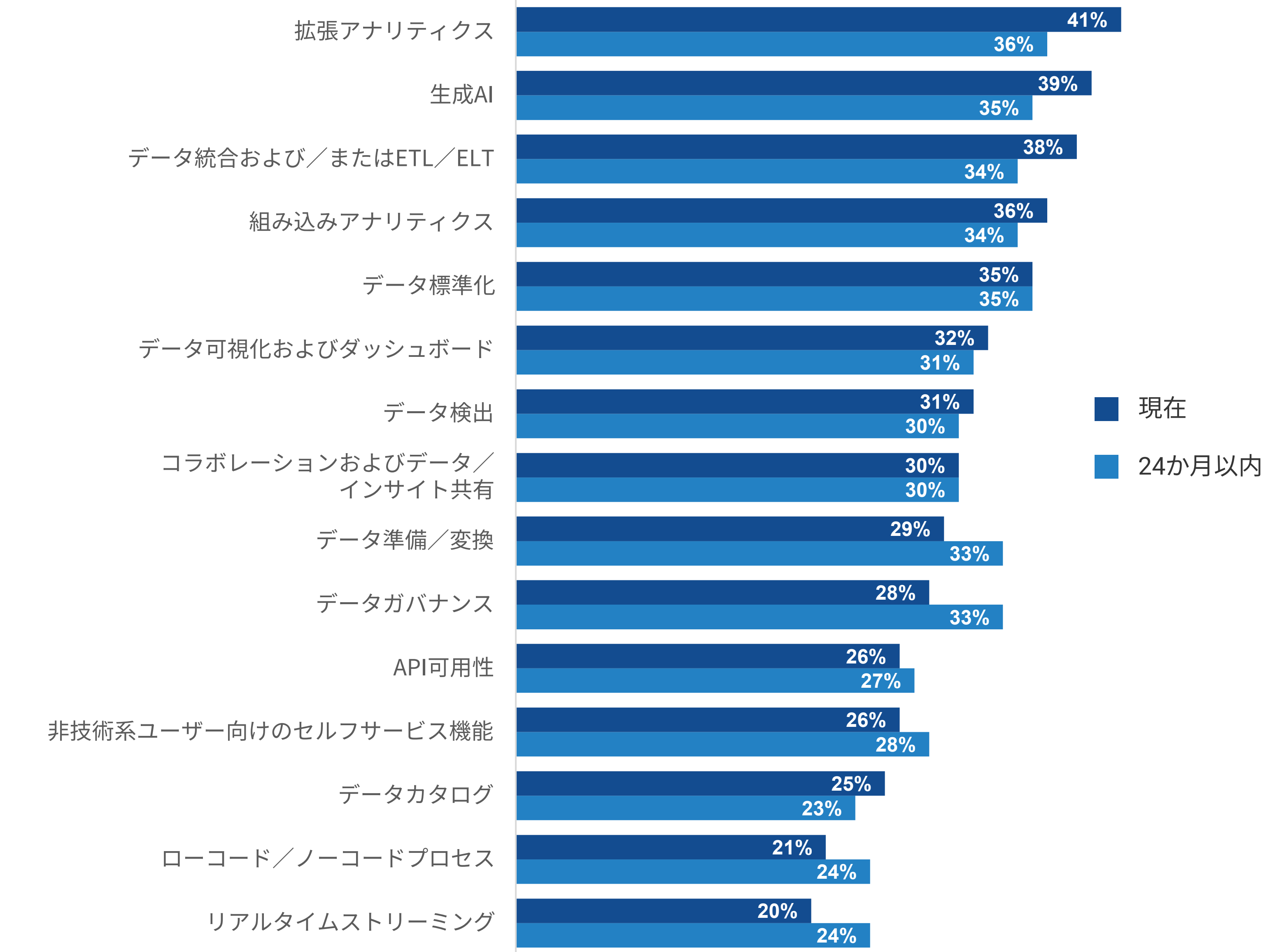


拡張分析と生成AIがビジネスインテリジェンスにおける現在および将来の機能をリードする

拡張分析と生成AIは、現在の使用と将来の使用の両方をリードします。AIを活用することで、分析の自動化、ダッシュボードの作成、インサイトの生成、データ主導型意思決定の徹底へ移行しようと尽力している組織は、よりアクセス可能な上に効率的です。

今後24か月で、特定の業界が重視する領域が変わってくる点に注意する必要があります。たとえば、製造業では、コラボレーションとデータ／インサイトの共有が最も重視される機能となります。小売業では、データ準備／変革に重点が置かれます。さらに、金融サービスでは、非技術系のユーザーがセルフサービス機能を介してより簡単に使用できるようにすることに引き続き重点が置かれ、他の機能よりも強調される頻度が増えます。

使用中および予定されているBI機能。

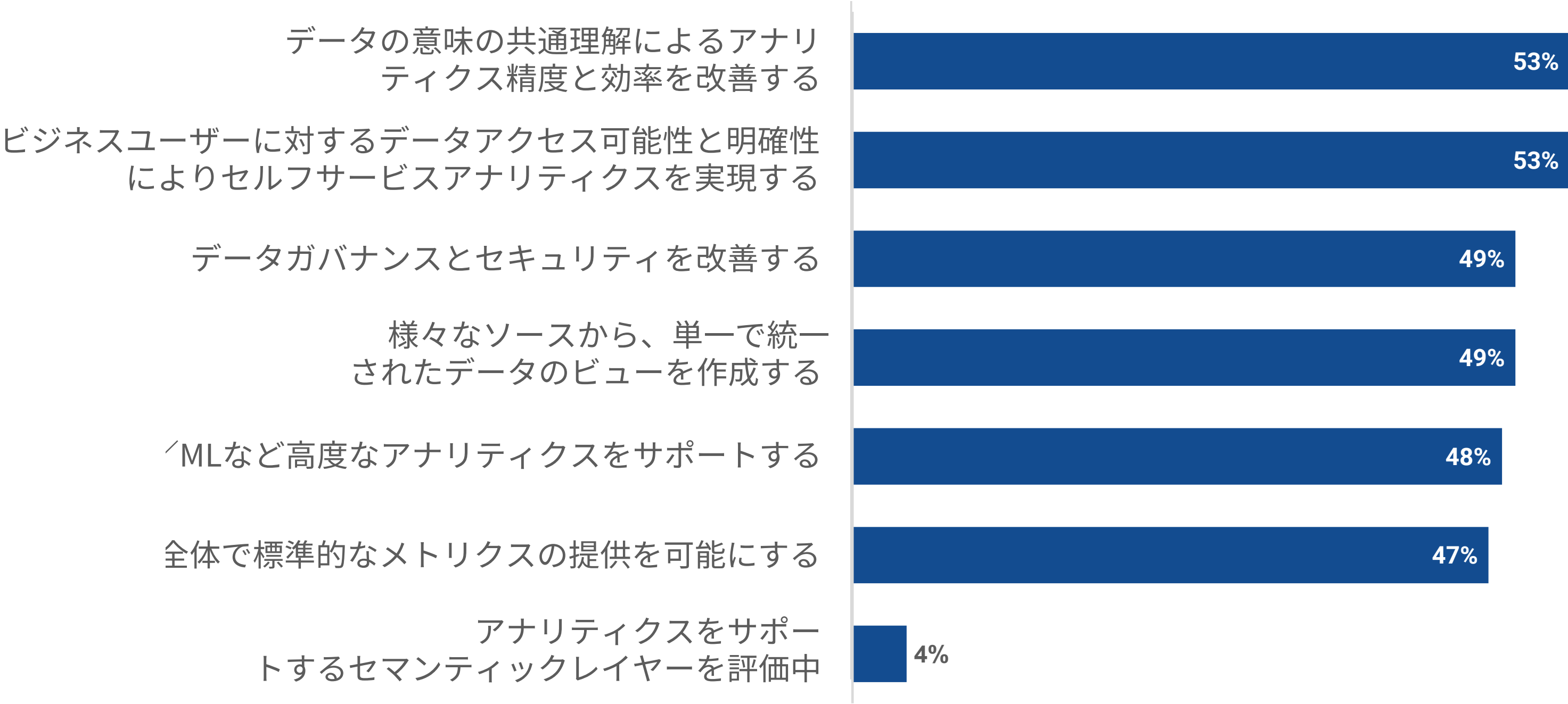


セマンティックレイヤー:BIプロセスを合理化し、データの理解を深めるための重要なコンポーネント

アナリティクスおよびBIイニシアチブにとって不可欠であると実証されているコンポーネントは、セマンティックレイヤーです。セマンティックレイヤーは、異なるソースからのデータの統一された構造化ビューを提供することで、特殊な技術的スキルがなくても、ユーザーが複雑なデータセットから正確なインサイトを取得できるようになります。ここ1年間、業界はセマンティックレイヤーへの関心と優先順位の復活を目の当たりにしてきました。その多用途性により、データアナリティクス機能を最大限活用することを目指す組織にとって不可欠なツールとなっています。セマンティックレイヤーはアナリティクスのバックボーンとして機能し、AIおよびMLテクノロジーとの関係がますます強くなります。データ精度の向上やセルフサービスアナリティクスのサポートから、データガバナンスおよびセキュリティの強化まで、セマンティックレイヤーはアナリティクスライフサイクルにおいて多面的な役割を果たします。

「セマンティックレイヤーはアナリティクスのバックボーンとして機能し、AIおよびMLテクノロジーとの関係がますます強くなります」

セマンティックレイヤーを使用してアナリティクスをサポートするためのドライバー。



利害関係者はアナリティクスおよびBI全体での従業員エンゲージメントの改善を目指している

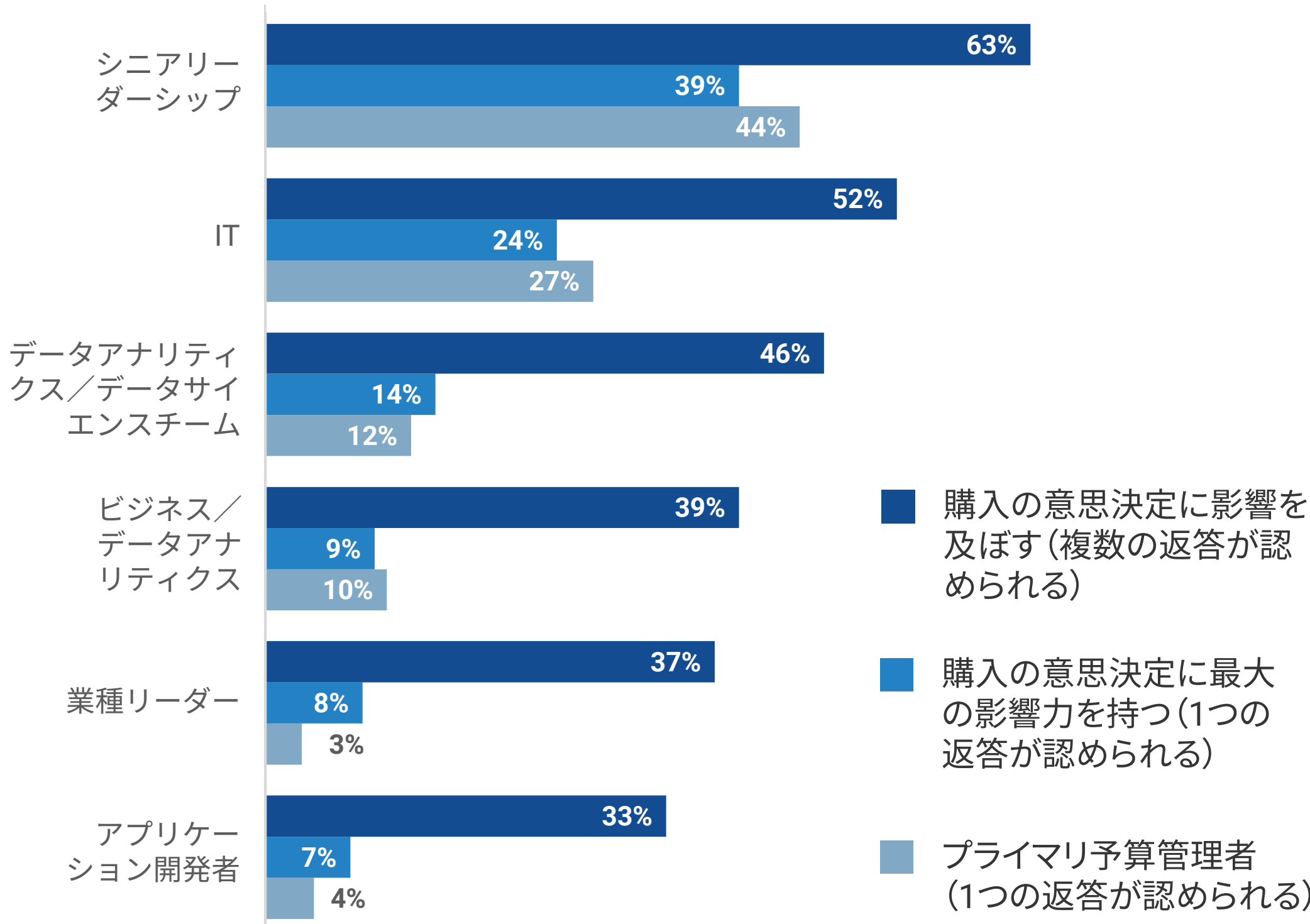


シニアリーダーシップおよびITに焦点を当てながら利害関係者の状況をマッピングする

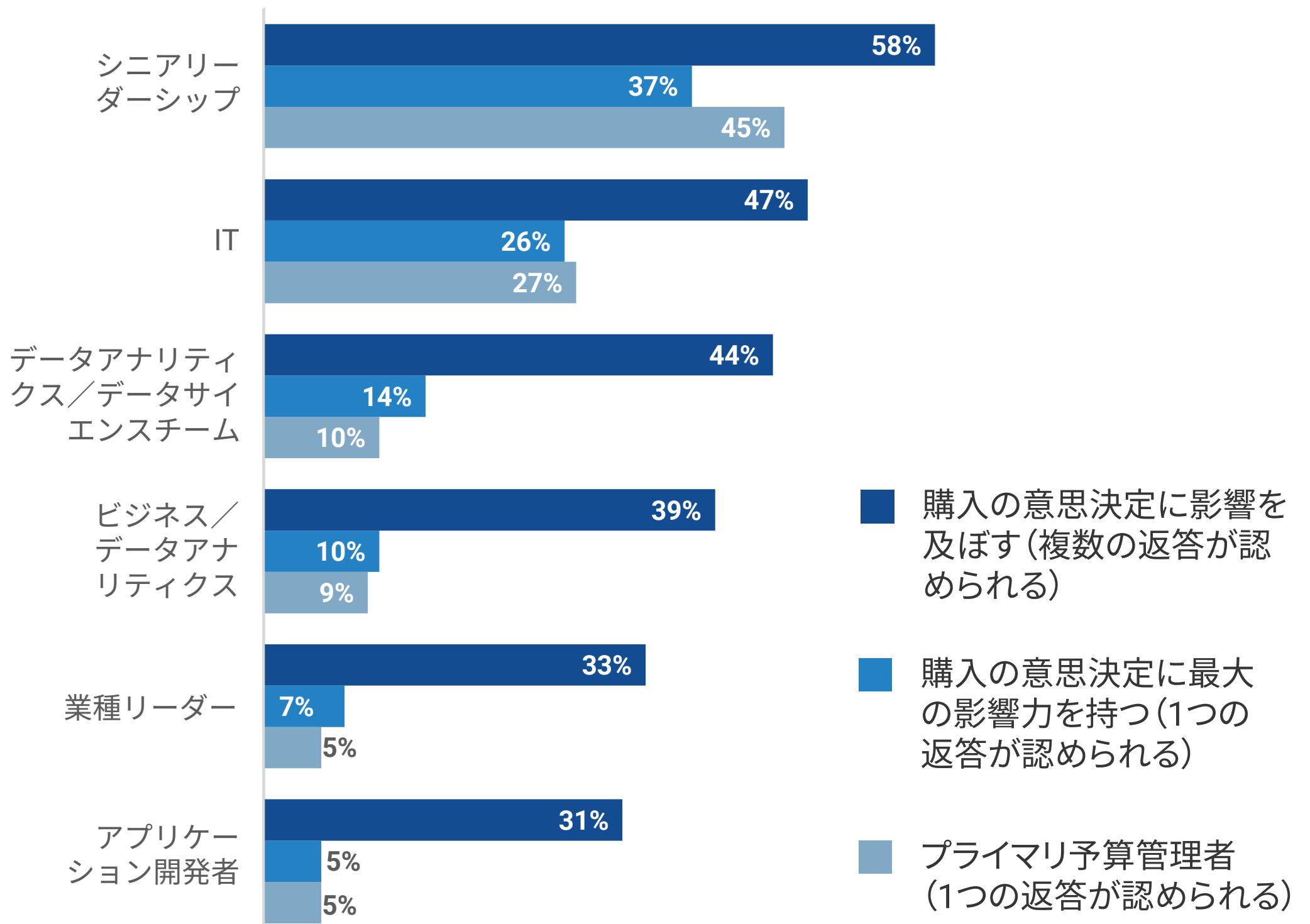
アナリティクス、ビジネスインテリジェンス、AI意思決定に関しては、利害関係者の影響が及ぶ範囲は、かなり異なります。ただし、往々にしてこの活動領域の主導権を握るのはシニアリーダーシップです。最も影響力のある利害関係者およびプライマリ予算管理者が、購入の意思決定時に大きな権力を持ちます。すぐ後ろに続くのが、IT部門です。これらの意思決定とテクノロジーの実装とサポートにおいて重要な役割を果たします。

これと異なる唯一のシナリオはIT業界で、IT部門が最も影響力のある利害関係者およびプライマリ予算管理者となります。

アナリティクスおよびBIテクノロジーの購入におけるインフルエンサーと予算管理者。



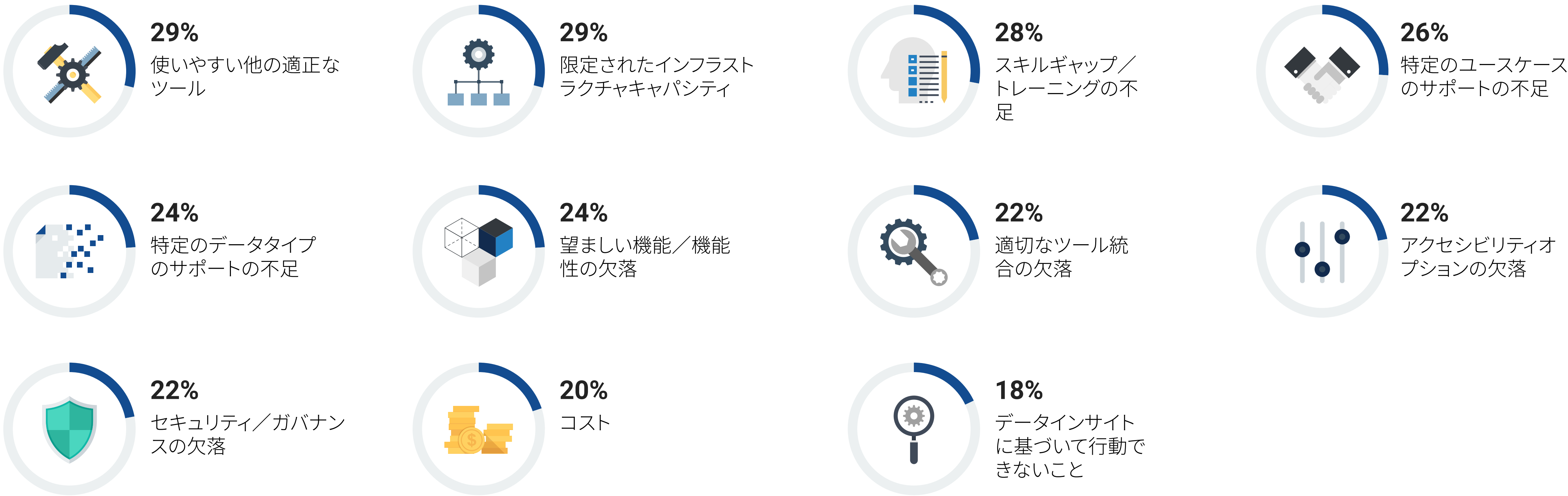
AIテクノロジーの購入におけるインフルエンサーと予算管理者。



快適さの欠落と限定されたキャパシティが原因で従業員がアナリティクス／BIプラットフォームを使用しない

1つの問題が他の問題より特に目立っているというわけではないものの、上位3つの問題（他の適正なツールにある快適さ、限定されたインフラストラクチャキャパシティ、スキルギャップ／トレーニングの不足）が相まって、多くの従業員がアナリティクス／BIプラットフォームを頻繁に使用するのを妨げているということがはっきりとわかります。従業員がそれぞれの目的に応じて十分に機能する既存のツールに満足しているため、新しいものや異なるものへ移行するニーズが認識されていません。これは特に、組織の環境に現存しないスキルが新しいプラットフォームに必要な場合に特に当てはまります。

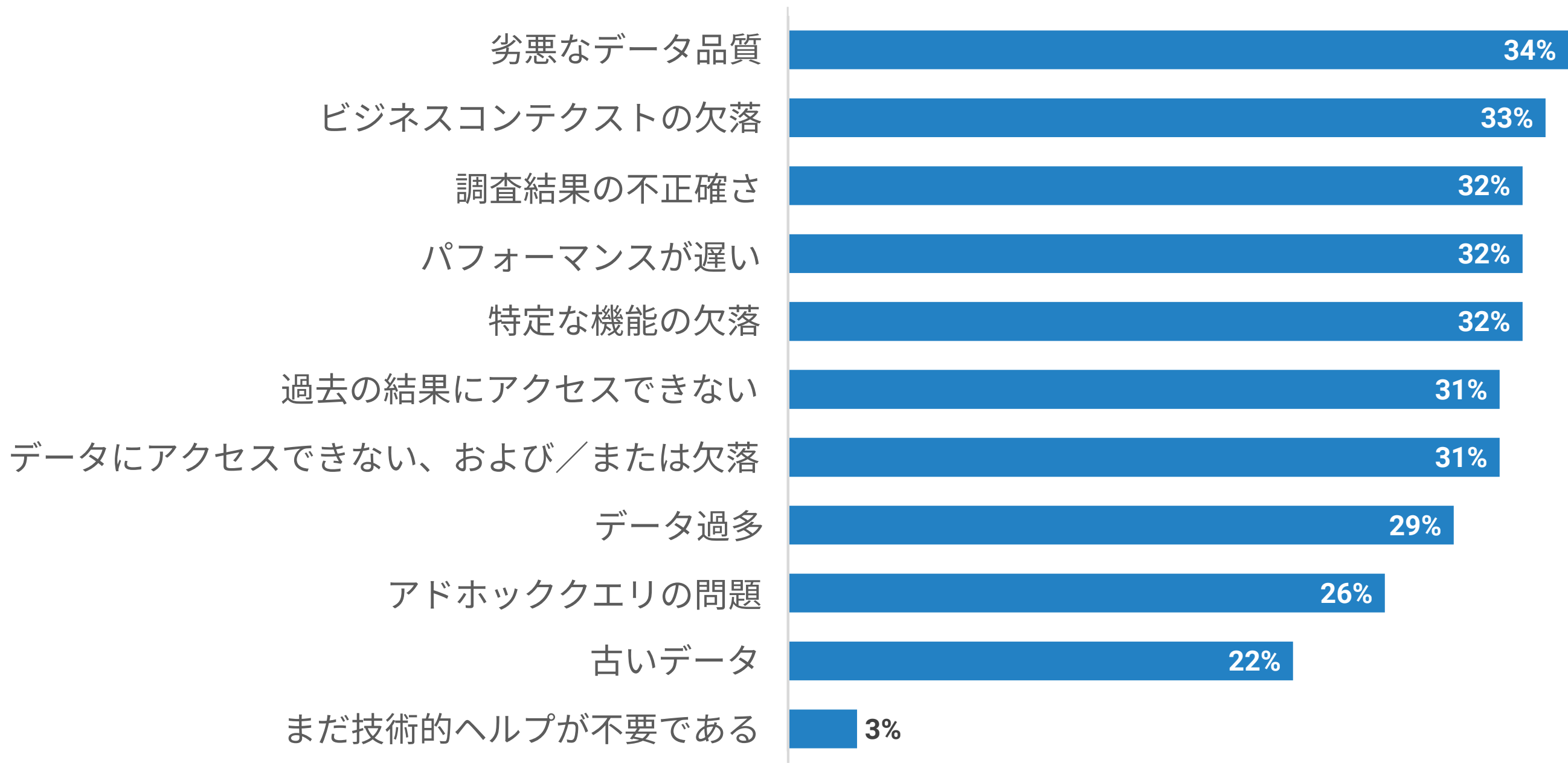
従業員のアナリティクス／BIプラットフォームの使用を妨げている上位の課題。



複数の問題によって、アナリティクス／BIプラットフォームのサポートリクエストがトリガーされる

アナリティクス／BIプラットフォームの問題はそれぞれ異なっており、技術的な問題からより広範な組織的な問題まで、幅広い領域を含んでいます。下層のデータ問題に起因する課題が多いものの、ビジネスコンテキストの欠落が主要な問題として目立っている点が注目に値します。これらのプラットフォームの使用を検討しているビジネスユーザーは増加傾向にあり、ビジネスコンテキストがデータに埋め込まれていないと、これらのユーザーは特定のビジネスシナリオの有意義なインサイトを導き出すために苦労します。従業員、特にビジネス役割を担う従業員は、関連するビジネスの観点なしで生データを実用的なインサイトに変換しようと必死になり、孤立感や苛立ちを感じます。これは、生産性の低下だけでなく、不満やエンゲージメントの低下にもつながります。

サポートリクエストをトリガーするアナリティクス／BIプラットフォームの課題。

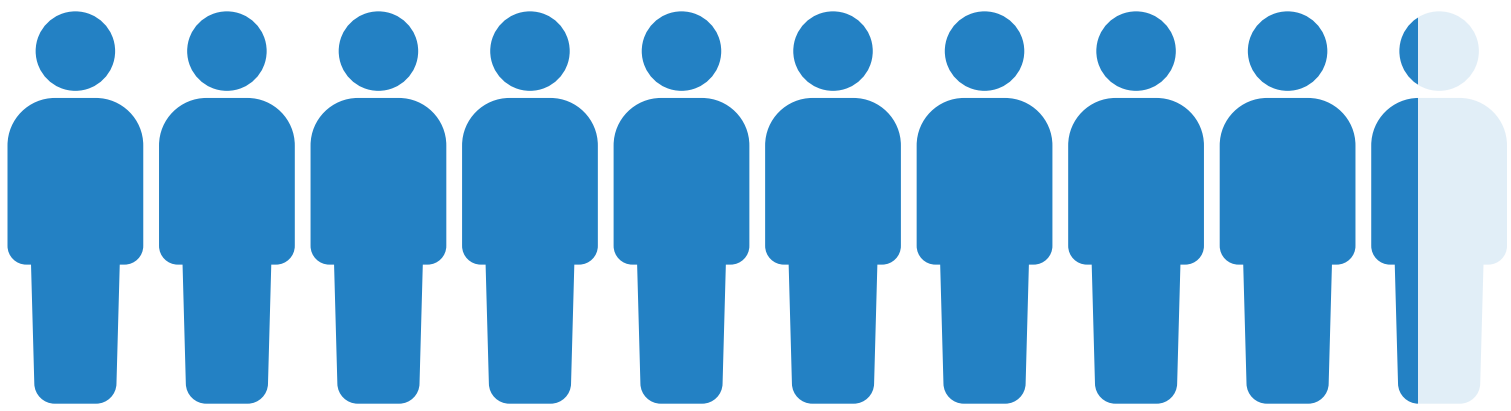
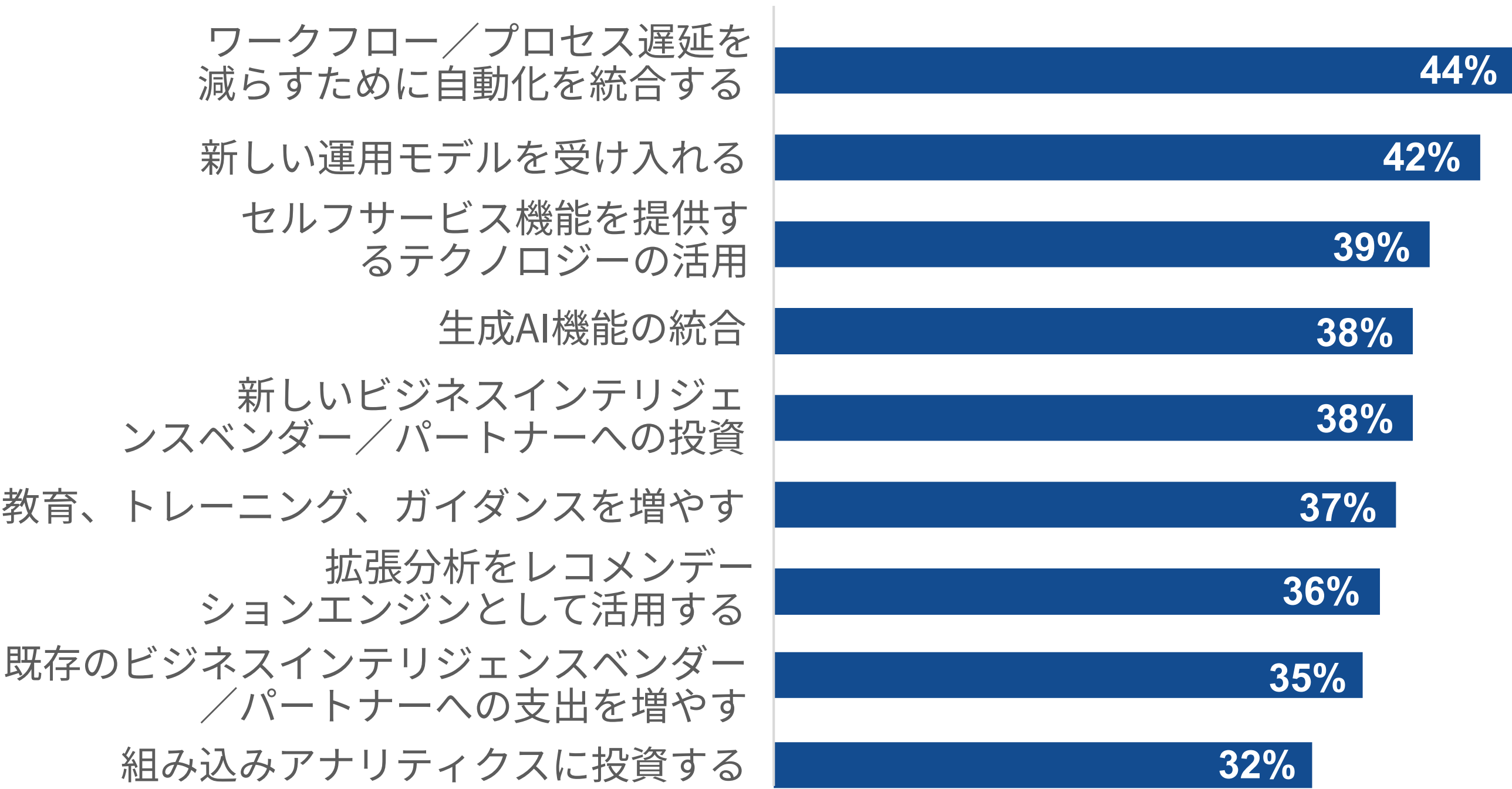


「下層のデータ問題に起因する課題が多いものの、**ビジネスコンテキストの欠落が主要な問題として目立っている点が注目に値します。**」

組織は、アナリティクスおよびBIを使用しやすくするための戦略を導入し続ける

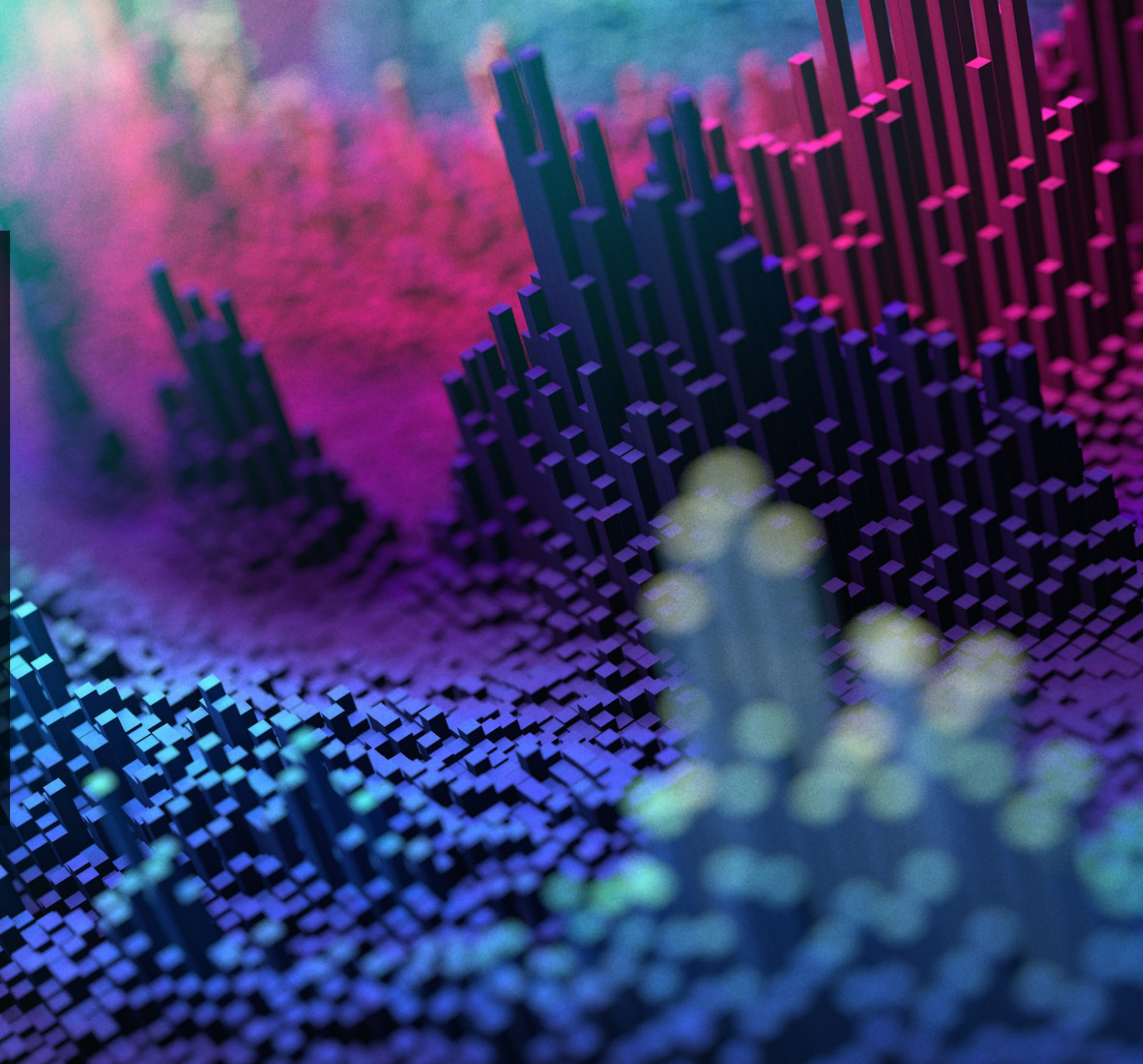
今日、組織の99%が、既存ユーザーと新規ユーザーがアナリティクスを活用できる計画を立てています。アプローチは組織によって異なりますが、選択された手順の多くは、自動化、セルフサービス、AIを組み込むことで、生産性と効率を高めることに重点を置いています。事実、組織の約40%が生成AI機能を組み込み、拡張分析をレコメンデーションエンジンとして活用しています。予測分析、人工知能、機械学習の進歩が、エンドユーザーにおける採用の増大という主要目的に向け、BIソリューションの需要を促進しています。組織の93%が、AIとMLのアナリティクスおよびBIへの統合のおかげでエンドユーザーによる採用が増大したと回答しています。これは、これらのテクノロジーが、企業が意思決定方法に大変革をもたらしている証拠です。

従業員がアナリティクスおよびBIを使用できるようにするための手順。



93%
の組織が、AIとMLのアナリティクスおよびBIへの統合のおかげで**エンドユーザーによる採用が増大した**と回答しています。

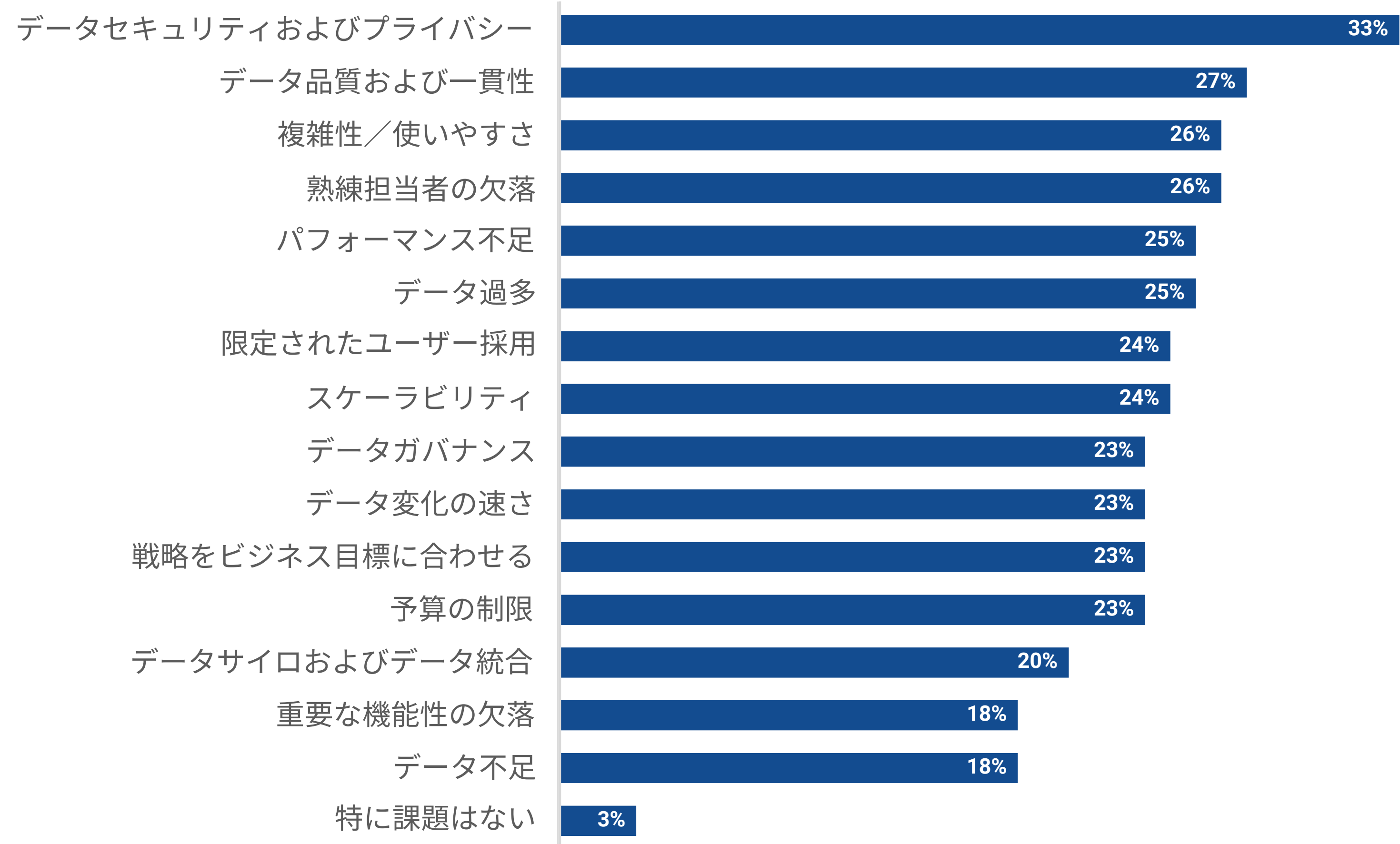
カスタマイズされ
たソリューション
は投資を増やし、
ベンダーロイヤル
ティを脅かす



AIプラットフォームのさまざまな課題が市場の至る所で明白になっている

セキュリティの確保は、組織にとって、特にAIを活用したシステムの保護において極めて重要です。AIテクノロジーへの依存度が高まるにつれ、組織は、不正アクセス、データ侵害、潜在する脅威を防ぐために、強力なセキュリティ対策を実装する必要があります。データ品質も、正確かつ信頼できる結果を確保するために最重要視されます。正確な成果は、エラー、矛盾、誤りのない高品質なデータに大きく依存しています。さらに、データの整合性を確保することにより、確信を持って情報に基づく意思決定を下し、成功とイノベーションを推進する有意義なインサイトを導き出すことができます。AIプラットフォームは、特に非技術系ユーザーにとっては複雑になりがちです。高度なアルゴリズム、機械学習モデル、データ処理方式には、操作するための専門知識が必要となるためです。技術的な基礎がないと、AIテクノロジーの使用は困難になります。

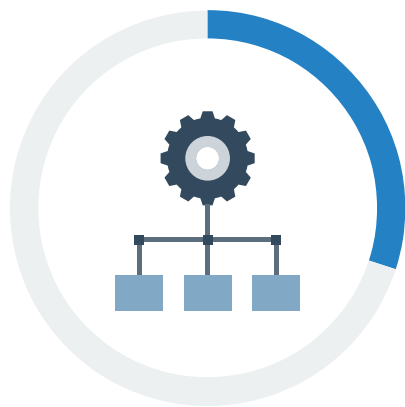
AIプラットフォームの上位の課題。



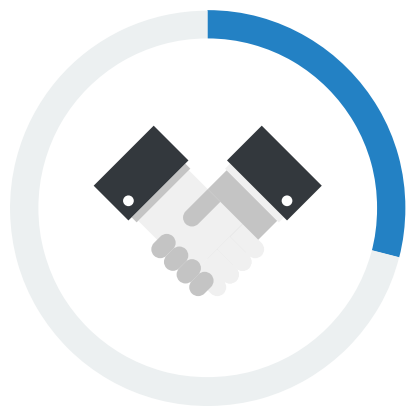
課題がAIプラットフォームの頻繁な使用を妨げる

調査で分かった課題のうち組織間で共有されるのは8%に過ぎず、AIプラットフォームにおいて組織が考慮すべき一連の懸念事項はそれぞれ異なることが明らかになりました。複数の課題で共通するテーマは、カスタマイズの重要性です。特定の利害関係者のニーズやユースケースに応じてAIツールをカスタマイズすることで、組織はユーザーエクスペリエンスとプラットフォーム全体の有効性を大幅に強化できます。カスタマイズは、データサイエンティスト向けの独自の機械学習アルゴリズムの組み込みから、セールス担当者向けの予測分析機能の埋め込みまでさまざまです。

従業員がAIプラットフォームの使用を妨げている上位の課題。



30%
限定されたインフラストラ
クチャキャパシティ



29%
特定のユースケース
のサポートの不足



27%
適切なツール統
合の欠落



27%
スキルギャップ／
トレーニングの不足



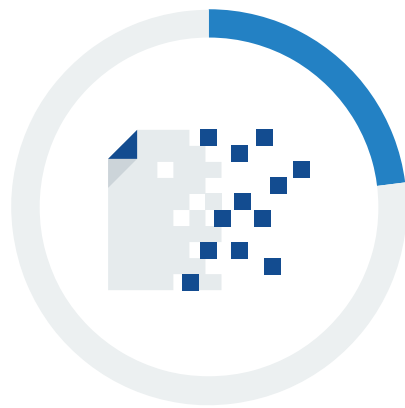
26%
データインサイトに基づいて行動できない



26%
望ましい機能／機能
性の欠落



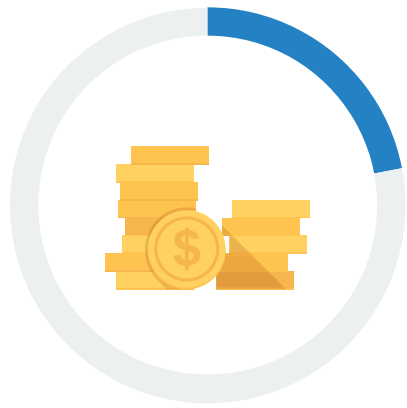
25%
セキュリティ／
ガバナンスの欠落



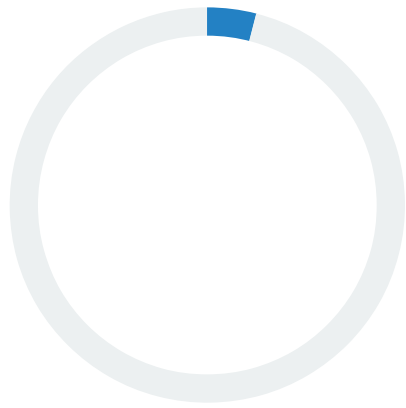
23%
特定のデータタイプ
のサポートの不足



22%
アクセシビリティ
オプションの欠落



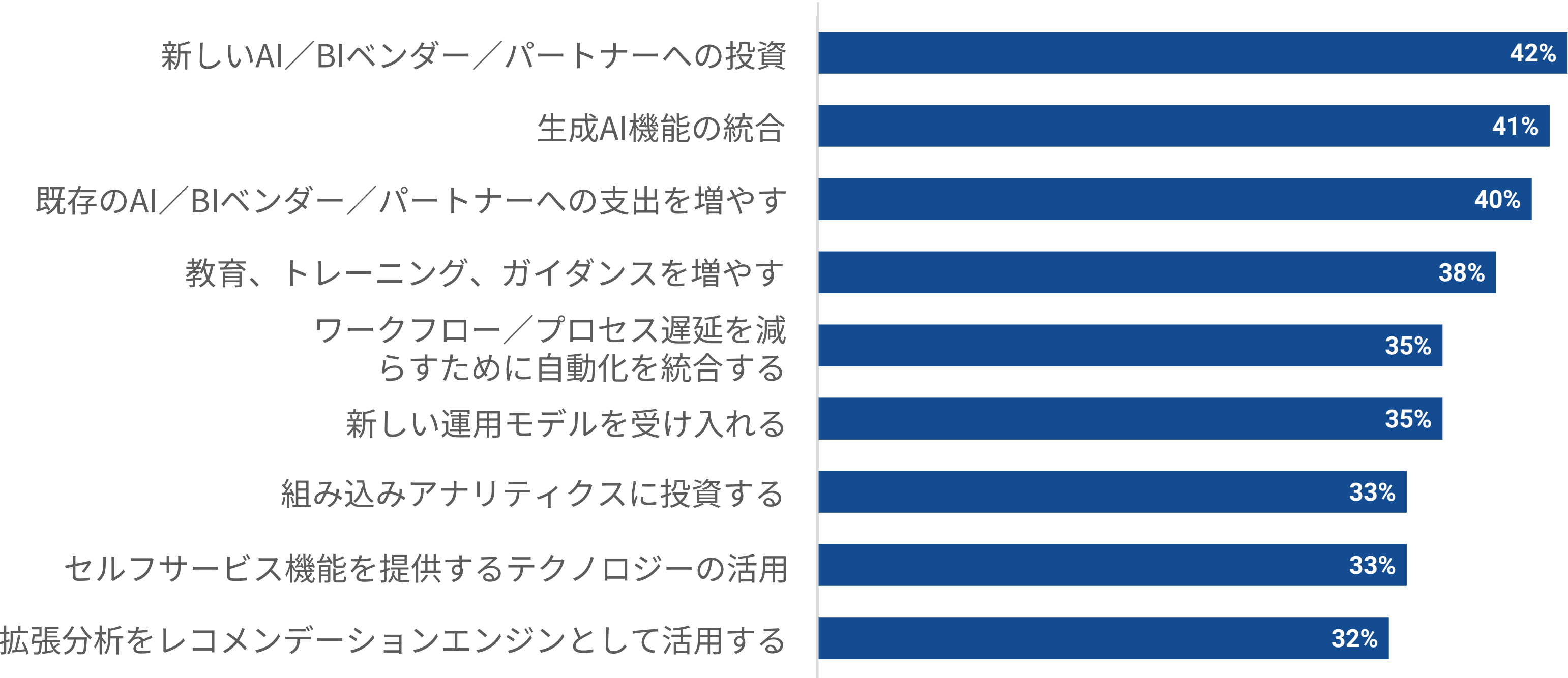
22%
コスト



4%
特に課題はない

「生成AIを組み込むことで高度な自動化と創造性がもたらされ、より強力な直感的なツールをユーザーに提供できます」

| エンドユーザーによるAIの使用を増やす手順。



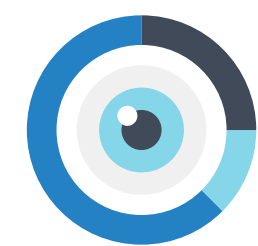
新しいベンダー、生成AI、支出の増加により、AIに対するユーザーエンゲージメントが改善する

新しいベンダーを積極的に採用し、生成AIを組み込み、既存ベンダーへの支出を増やすことで、AIサービス、高度な自動化、改善されたユーザーサポートを拡張することができます。ここで、新しいベンダーが新鮮な視点と特化したソリューションをもたらし、使用可能なAIサービスの範囲が拡大されることを明確に把握できます。さらに、生成AIを組み込むことで高度な自動化と創造性がもたらされ、より強力な直感的なツールをユーザーに提供できます。既存のベンダーへの支出を増やすことで、学習曲線を完全にリセットしなくても、サポートの向上、継続的改善、最先端機能の統合が実現します。

重要なAIユースケースが組織的影響を推進し続ける

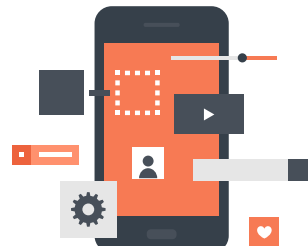
さまざまな実用的かつ具体的なAIユースケースにより、各種市場でAIが広範に使用されていることは明らかですが、最も影響力の強いAIのユースケースの1つがデータ分析および予測モデリングです。これらのアセットのパワーを活用することで、組織は運用効率を高めるだけでなく、データ主導型の意思決定を下すことができるようになるため、急速に進化するビジネス環境に直面しても常に機敏性を維持できます。このため、データ分析および予測モデリングは、AIユースケースの分野で極めて重要な礎となり、企業はそれに基づいて、貴重なインサイトを明確化し、イノベーションを推進して、持続可能な成長を達成できます。

組織にとって最も重要なAIユースケース。



35%

データ分析および予測
モデリング



31%

製品開発およびイノ
ベーション



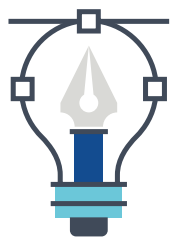
29%

リスク管理および不正
行為の検出



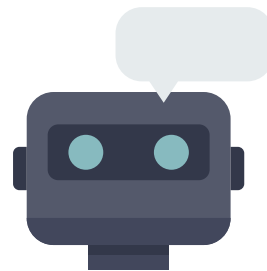
26%

セキュリティおよ
び脅威検出



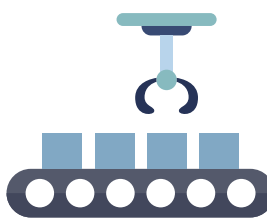
26%

顧客インサイトおよび
パーソナライゼーション



25%

カスタマーサポートお
よびチャットボット



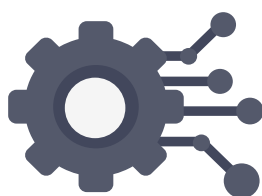
25%

サプライチェーンの最
適化



23%

人事および人材管理



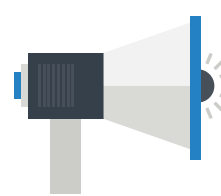
22%

プロセス自動化



19%

エネルギー効率



19%

セールスおよびマーケ
ティングの最適化

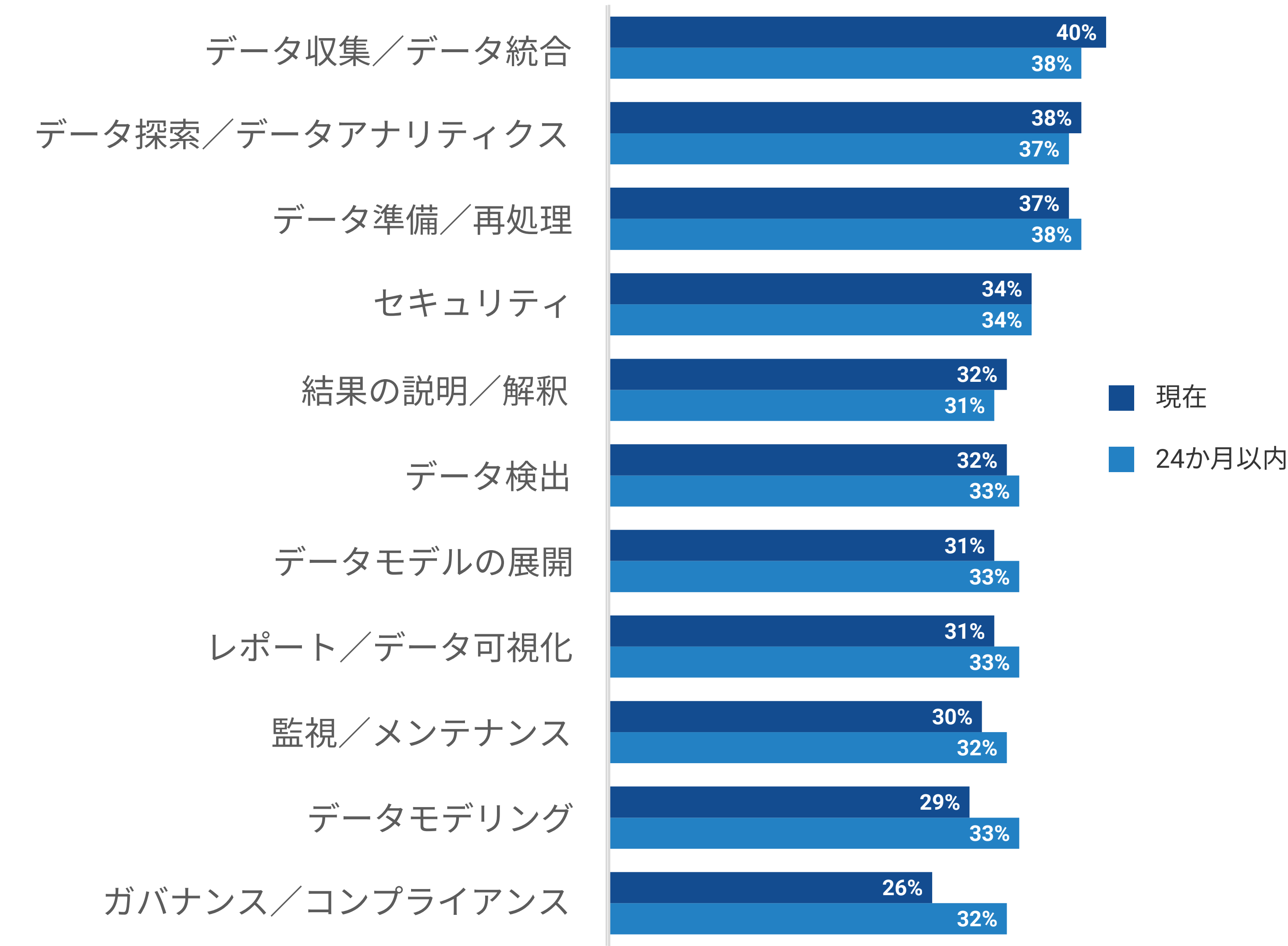
AIはデータおよびアナリティクスのライフサイクルに大改革をもたらしているが、業務は旧態依然としている



データおよびアナリティクスのライフサイクルにおいてAIの役割がより顕著になりつつある

生成され収集されるデータ量が増え続ける中で、従来のデータ管理およびアナリティクスでは、もはや不十分です。ここで、データおよびアナリティクスのライフサイクルのすべての面に大変革をもたらす可能性を秘めたAIが登場します。この大きな理由の1つとして、組織の90%が、AIが複数のアナリティクスプロセスを大幅に改善したと答えています。データ調査（パターンとトレンドの特定など）とデータ準備（分析のためのデータのクリーニングと変換など）を通じたデータ収集（顧客のフィードバックの収集とWebサイト分析の追跡など）から、暗号化とアクセス制御を通じたデータセキュリティの確保まで、AI機能は事実上すべてのデータおよびアナリティクスソリューションで必要不可欠です。

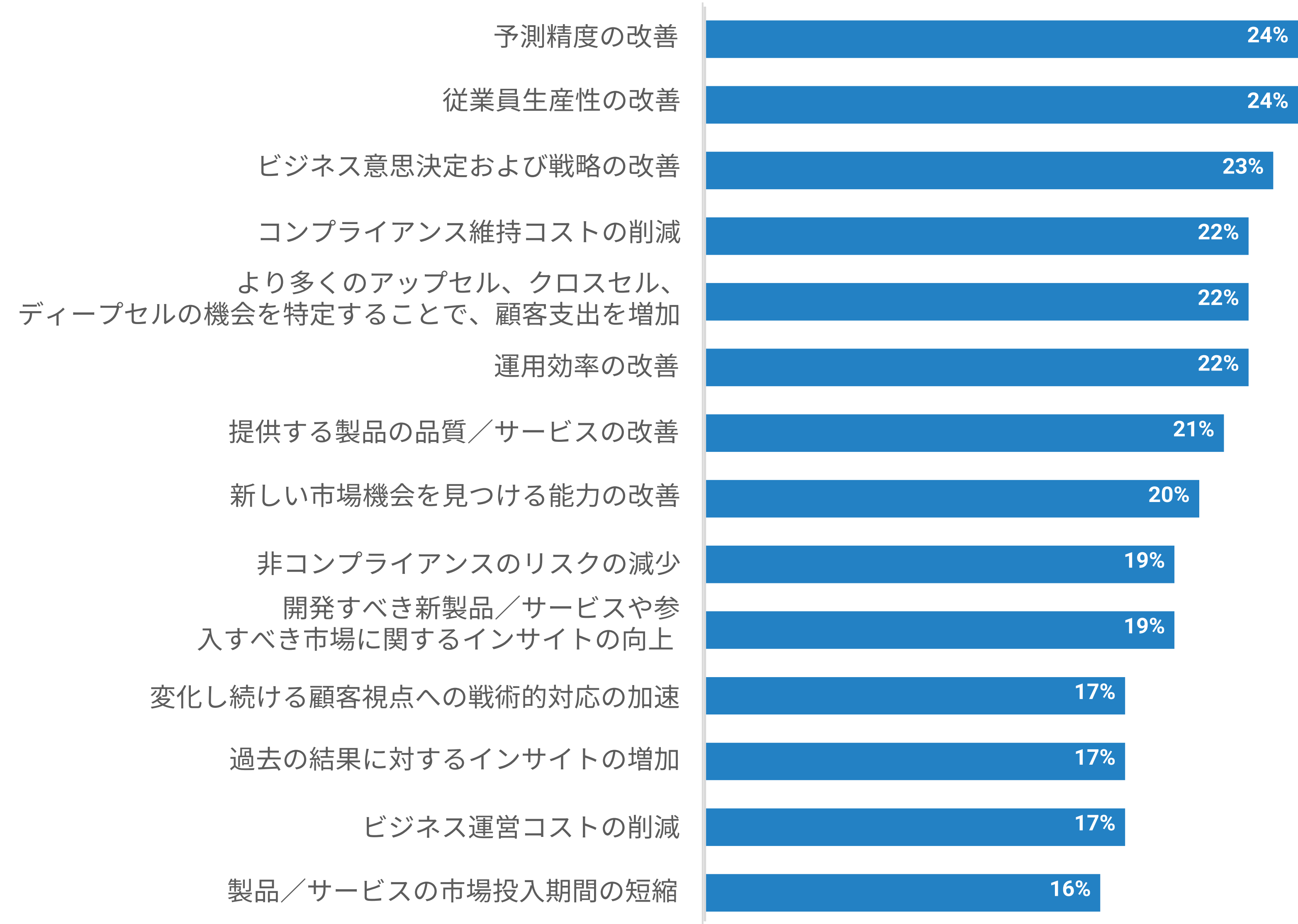
組織がAIまたは機械学習を現在利用している、または今後利用予定の分野。



AIをアナリティクスおよびBIに統合するメリットでリードしているのが精度と生産性の向上である

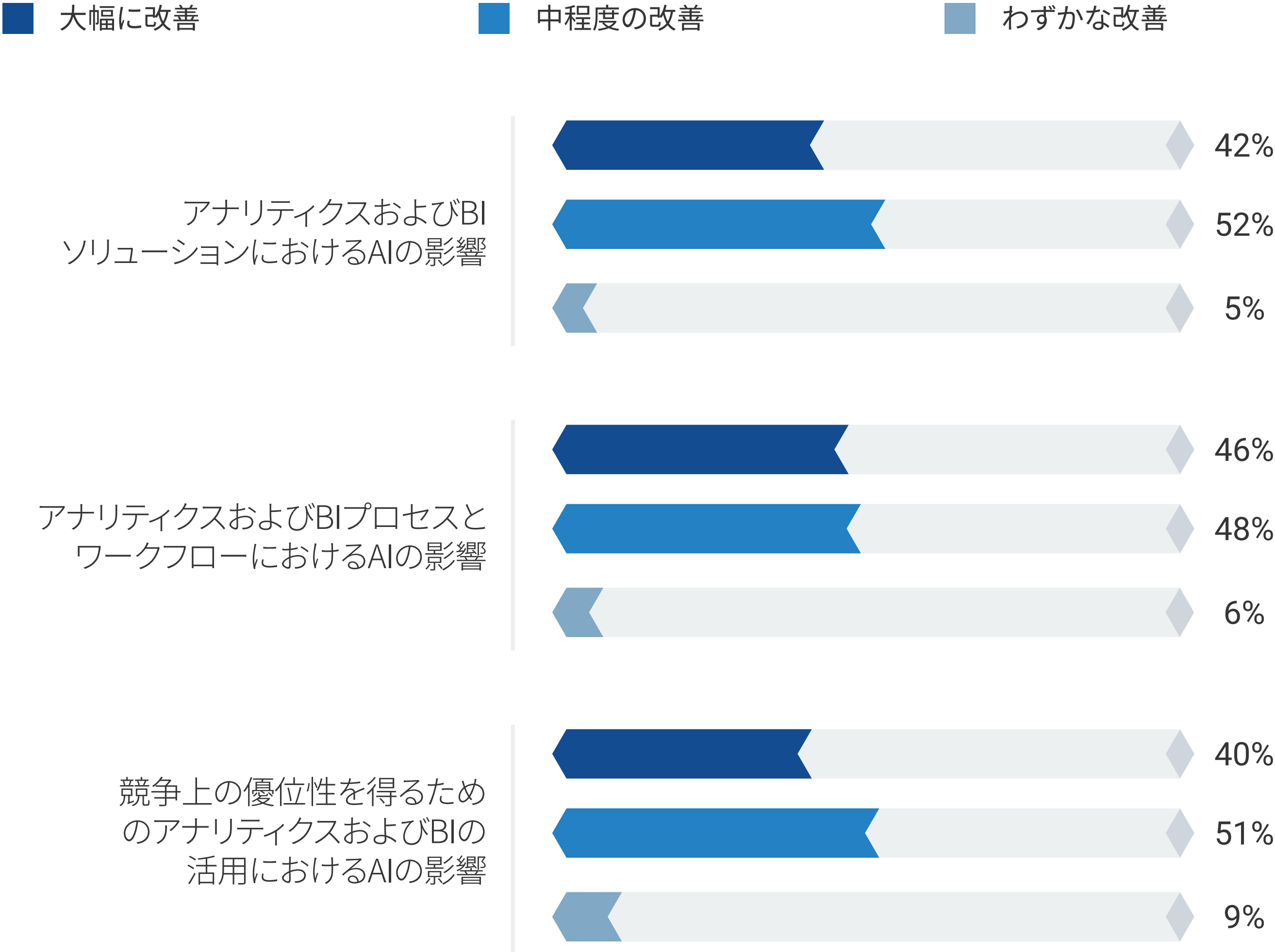
ほぼすべての組織で、AIの統合により、組織のアナリティクスおよびBI機能で改善が見られました。ただし、それにはデータ管理およびアナリティクスプロセスの強化だけでなく、予測精度、従業員の生産性、ビジネス上の意思決定と戦略の改善などの目に見えるメリットも含まれます。組織は、アナリティクスおよびBI運用のパフォーマンスと有効性を大幅に変革するためにますますAIに期待を寄せています。事実、組織の91%が、アナリティクスおよびBIとともにAIを活用するために、より多くの方法を積極的に追求しています。

アナリティクスおよびBIプラットフォームでAIを使用するメリット。



AIが生産性を高め、ワークフローを強化するため、企業は競争上の優位性を得られる

なんと組織の94%が、AIはアナリティクスおよびBIソリューションを効果的に利用することで生産性に大幅な向上をもたらすと期待しています。同様に、組織の94%が、AIがアナリティクスおよびBIプロセスとワークフローの速度と効率に中程度～大幅な改善を引き起こすと期待しています。AIを使って日常のエラーが発生しやすいタスクを自動化することで、組織は戦略的意思決定に重点を置き、競争相手の一歩先を進み続けることができます。組織の91%が、市場での競争上の優位性を得るために、AIにアナリティクス／BIを活用する能力を中程度～大幅に改善することを期待している大きな理由の1つはこれです。

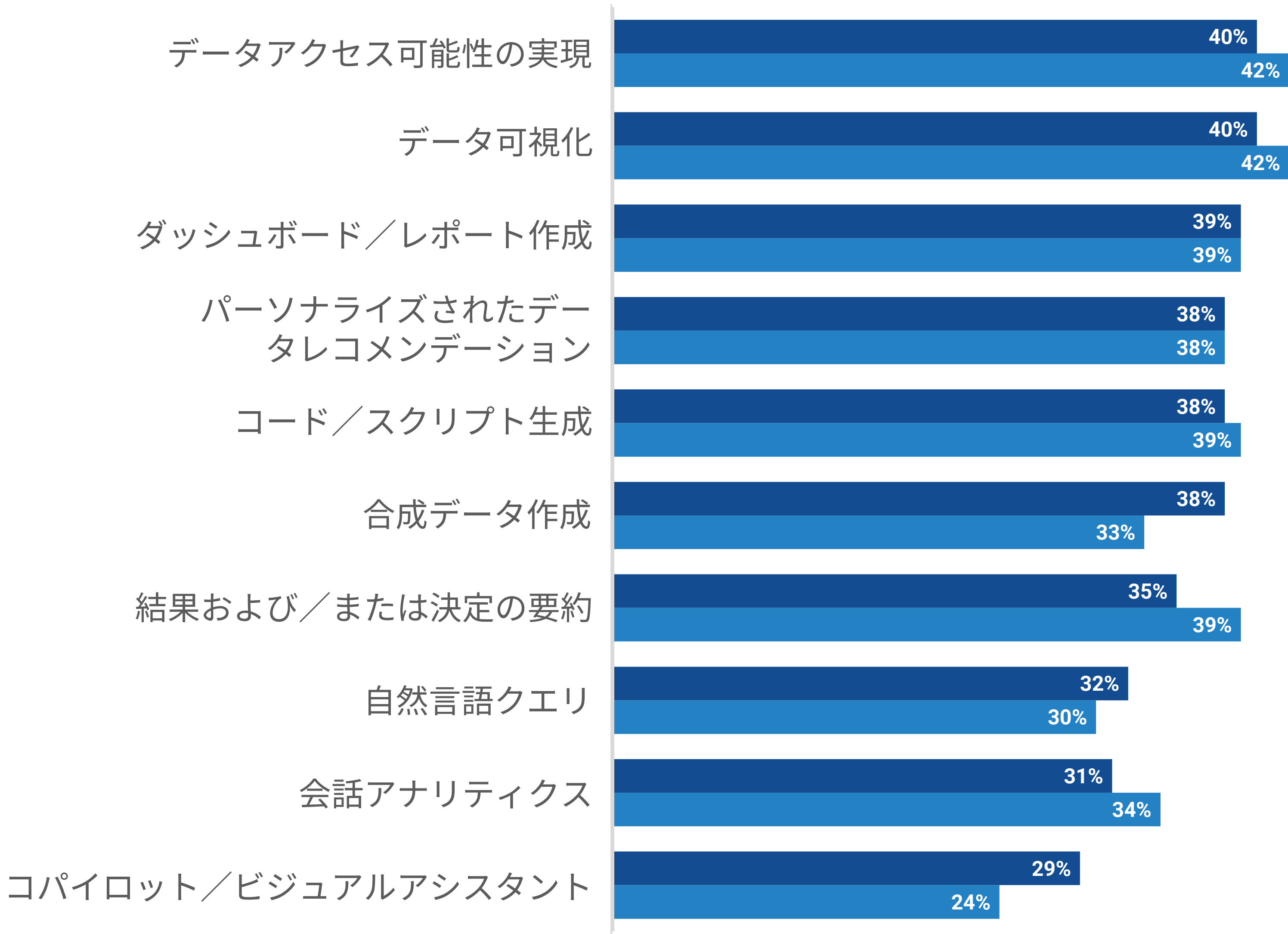


メリットとリスク軽減
のバランスを取るニ
ーズが高まる中、生成AI
が変革をもたらす



現在および過去12か月の生成AIのユースケース。

■ 現在のユースケース ■ 過去12か月のユースケース



アナリティクスおよびBIにおけるAIのユースケースの拡大

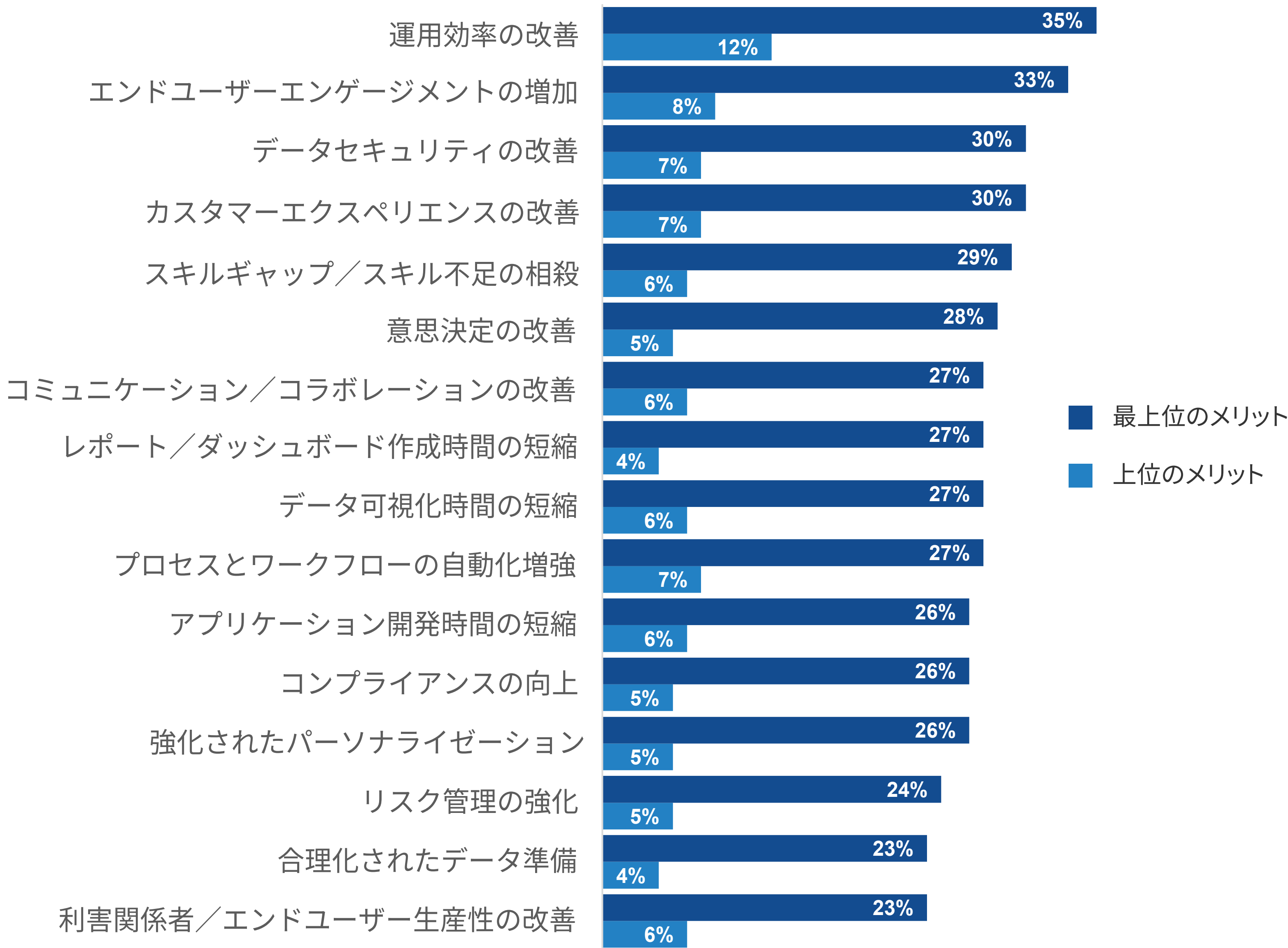
生成AIの採用は、アナリティクスおよびBI分野で急増してきており、事実上、データおよびアナリティクスのライフサイクル全体を通じて携わるすべての利害関係者に影響をもたらすと期待されています。これには、データを調査および可視化するデータ／ビジネスアナリスト、モデルとアルゴリズムを構築するデータサイエンティスト、データインフラストラクチャを管理するITプロフェッショナル、インサイトに基づいて重要な意思決定を下すビジネスリーダーが含まれます。さらに、AIが進化・成熟し続けるなか、日々のビジネス活動と意思決定プロセスにおいて不可欠な部分となっていきます。従って、組織は、アナリティクス機能を強化し、イノベーションを推進できる有益なツールとしてAIを取り入れる必要があります。

「組織の94%が、生成AIは、アナリティクスおよびBIソリューションを使用する多数のエンドユーザーに影響を及ぼすと確信しています」

組織が生成AIをアナリティクスおよびBIに適用することによる多数のメリット

自律的にコンテンツを作成し、インサイトを生成して、意思決定プロセスを最適化する生成AIの能力を備えたテクノロジーは、運用効率と生産性を前例のないレベルにまで高めます。データアクセスとアナリティクスの民主化は、業界を超えた長年の目標でしたが、多くの組織が生成AIが最終的にそれを実現するテクノロジーであると述べています。自動化に留まらず、パーソナライズされた動的エクスペリエンスを通じてエンドユーザーエンゲージメントを高める可能性があるため、組織がデータおよびアナリティクスのパワーを利用する方法において、確実にパラダイムシフトを引き起こします。組織の94%が、生成AIは、アナリティクスおよびBIソリューションを使用する多数のエンドユーザーに影響を及ぼすと確信しています。

アナリティクスおよびBIで生成AIを使用する最上位のメリットおよび上位のメリット。





MicroStrategyは、アナリティクスおよびビジネスインテリジェンス分野における最大手の独立系上場企業です。MicroStrategy Analytics Platformは、膨大な量のデータに基づいたインテリジェントな分析と行動を組織に実現する、生成AI機能によって強化されたソフトウェアソリューションを提供します。当社は、エンタープライズアナリティクス分野で常に最高の評価を受け、Fortune Global 500において世界で最も認められている多くのブランドによって採用されています。当社は2つの企業戦略を追求しています。(1) 当社のエンタープライズアナリティクスソフトウェアビジネスを拡大し、当社のビジョン「Intelligence Everywhere」を促進する、および(2) ビットコインを獲得し保持する。当社はビットコインを主権者の金融政策に縛られない堅牢で公開されたオープンソースアーキテクチャによってサポートされる信頼できる価値貯蔵手段であるとみなしています。当社は、かつてないほど競争の激しい市場でお客様の成功を実現するデジタルトランスフォーメーションのプラットフォームを提供します。

詳細はこちら

ENTERPRISE STRATEGY GROUPについて

TechTargetのEnterprise Strategy Groupは、テクノロジーの分析、調査、戦略立案を行う統合企業であり、グローバルなテクノロジーコミュニティに、市場情報、実用的なインサイト、市場開拓といったコンテンツサービスを提供しています。

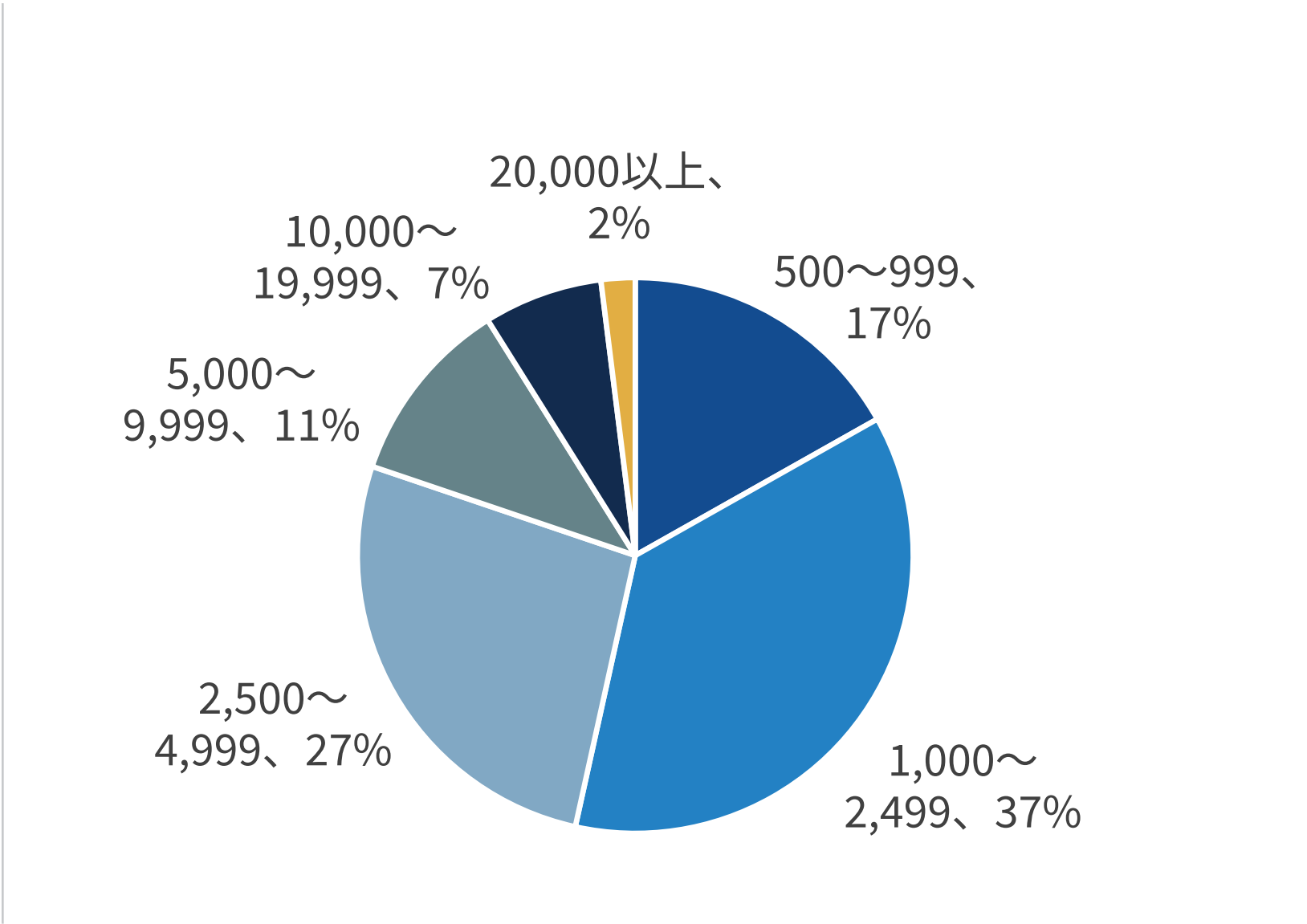


調査方法とターゲット層

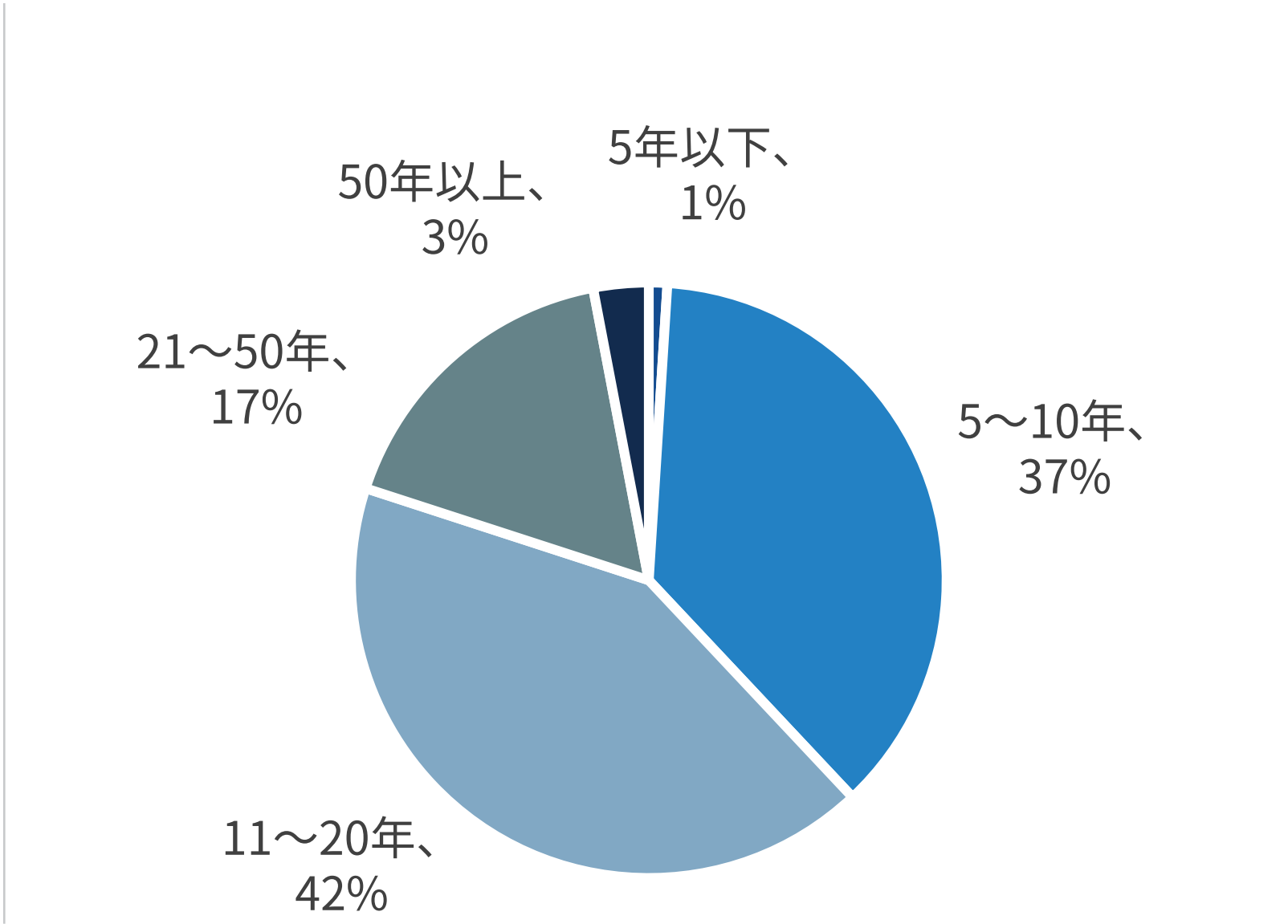
このレポートのデータを収集するために、Enterprise Strategy Groupは、2023年10月31日から2023年11月9日まで、北米（米国およびカナダ）の民間部門と公共部門のデータおよびITプロフェッショナルを対象に包括的なオンライン調査を実施しました。この調査の適正を期すために、回答者は、アナリティクスおよびビジネスインテリジェンスソリューションの評価、購入、管理、構築に携わる、またはそれらの責任を担っている必要がありました。調査を完了したすべての回答者には、賞金または現金相当物の形で報奨が提供されました。

適格でない回答者を除外し、重複する回答を削除して、データの整合性を得るために残りの完全な回答をスクリーニング（多数の基準に基づき）した後、最終的に合計375人のITおよびデータプロフェッショナルのサンプルが残りました。

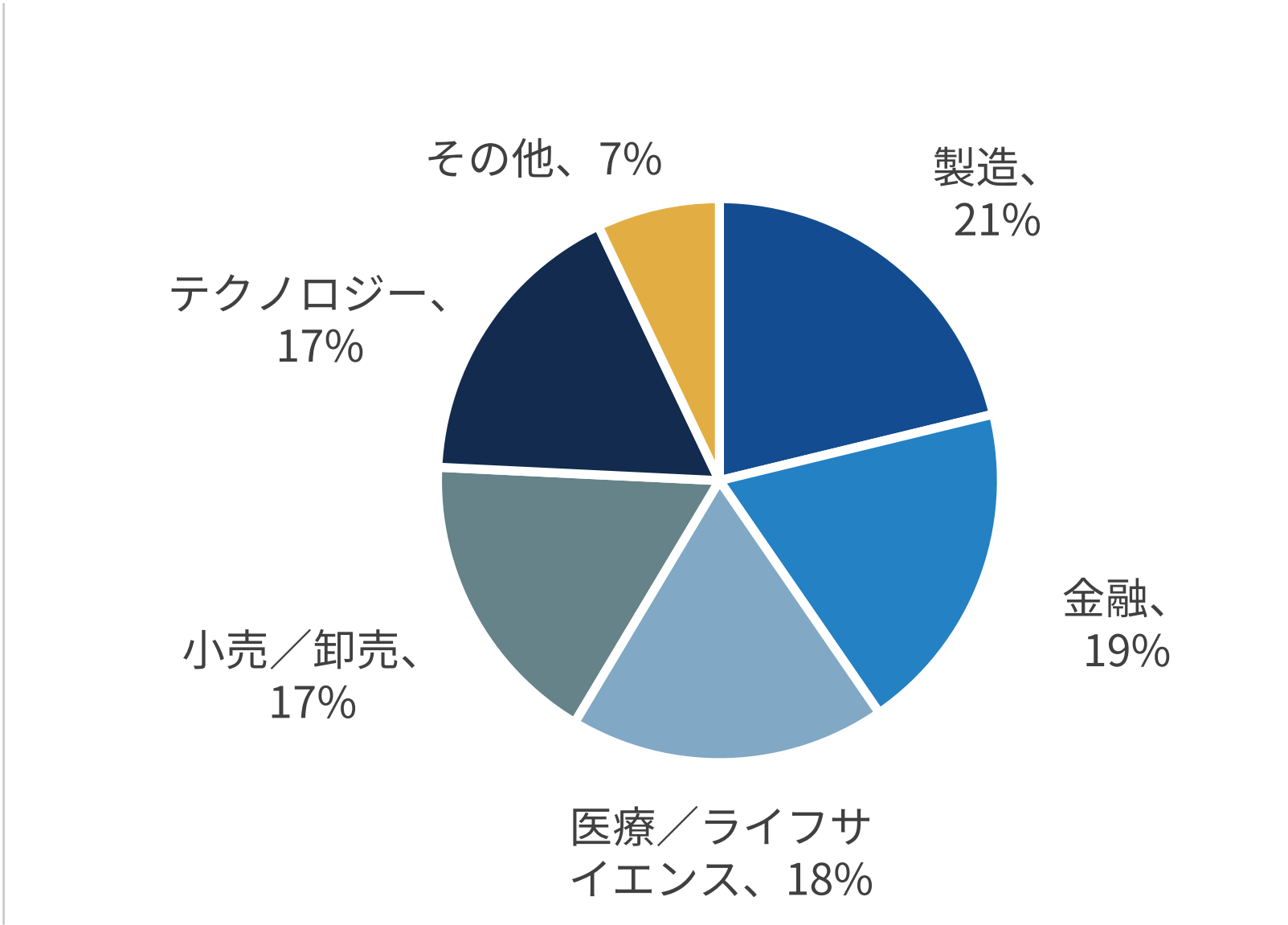
従業員数別回答者数



会社の存続年数別回答者数



業界別回答者数



すべての製品名、ロゴ、ブランド、および商標は、各所有者の所有物です。この出版物に含まれる情報は出版元のTechTarget, Inc.によって取得され、信頼できるものとして見なされていますが、TechTarget, Inc.によって保証されるものではありません。この出版物には、TechTarget, Inc.の私見が含まれる場合があります、変更される可能性があります。この出版物には、予想、予測、および現在使用可能な情報を考慮したTechTarget, Inc.の仮定や期待を表す予測的な意見が含まれる場合があります。これらの予測は業界のトレンドに基づいており、可変かつ不確実さが含まれています。従って、TechTarget, Inc.はここに含まれる予想、予測、予測的な発言の正確さについて一切の保証を行いません。

この出版物は、TechTarget, Inc.により著作権保護されています。TechTarget, Inc.の明確な承諾なく、この出版物のすべてまたは一部を、ハードコピー形式、電子的、またはその他のいずれの方法であれ、それを受け取ることが許可されていない人物へのいかなる複製または再配布も、米国著作権法への違反であり、民事訴訟、および適用可能な場合は刑事訴追の対象となります。ご質問等ありましたら、顧客関係窓口 (cr@esg-global.com) までお問い合わせください。



Enterprise Strategy Groupは、テクノロジーの分析、調査、戦略立案を行う統合企業であり、グローバルなテクノロジーコミュニティに、市場情報、実用的なインサイト、市場開拓といったコンテンツサービスを提供しています。

© 2024 TechTarget, Inc. All Rights Reserved.